

Issue 13

岐阜大学大学院連合農学研究科
2024年1月～12月



NEWSLETTER

第13号発行にあたり

研究科長としての5年目が終わろうとしております。旧来の任期は最大4年となっておりますので、格別に長い時間を頂いていることとなりますが、国際的な農学研究拠点という目標への道のりは遠く、依然道半ばというところです。

さて、2024年の最大のトピックは東海国立大学機構でスプリング事業が採択されたことかと思えます。本研究科では30名近くの学生が同事業より奨学金を頂けるようになりました。岐阜大学側の代表者である小山教授他、関係の皆様にお礼申し上げます。また、同じく大きな動きとしては、フランス・リール大学、リリアン・ヴィータウタス・マグヌス大学との共同指導学位プログラムが稼働し始めたことでしょうか。早速1名のフランス人学生がプログラムに入学し、次年度も2名の学生が志願する見込みとなっています。この共同指導学位プログラムはジョイントディグリープログラムに準ずる形で運営されており、双方の大学にとってメリットも大きい仕組みになっているため、IC-GU12の協定校とも導入についての意見交換をはじめているところです。

11月にはインドネシア・スブラスマレット大学との共催で本研究科を会場に気候変動に関する国際会議を開催いたしました。IC-GU12の協定校からも多くの研究者、そして修了生が参加して下さり、旧交を温めることが出来ました。国際交流を通じて、教員、学生、そして卒業生の研究力の向上を計ることは本研究科に求められている役割の一つではないかと考えております。次年度は、静岡大学を会場にポストハーベストの品質管理についてのアジアシンポジウム（ASQP2025）が開催される予定になっておりますが、本研究科も共催に加わり、関係教員および学生の支援とIC-GU12の協定校との連携を強化する予定です。

今後とも本研究科の発展にご助力いただきますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

岐阜大学大学院連合農学研究科長

平松 研



2024. 11/6-8

10th International Conference on Climate Change (ICCC) 2024
-Climate Change, Plant, and Health-

第12回

06

ラウンドテーブルミーティング The Roundtable meeting 2024



11月6日（水）、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（日本を含む南部アジア地域9カ国21大学）による「IC-GU12 Roundtable Meeting 2024（農学系博士教育国際連携円卓会議）」を開催しました。リエゾン教員など25名（対面14名、オンライン11名）にご出席いただきました。平松研究科長からの挨拶の後、各大学の近況報告に続き、共同指導学位（コチュテル）の定義と、利点、ジョイントディグリー、ダブルディグリーとの比較が紹介されました。参加校からはさまざまな質問、意見が寄せられ、活発な意見交換の場となり、今後のコンソーシアムをより充実したものにするための非常に有意義な機会となりました。

第10回

International Conference on Climate Change

スブラスマレット大学（インドネシア）との共催で「Climate Change, Plant, and Health」をテーマに、対面とオンラインのハイブリッドで、第10回International Conference on Climate Change を開催しました。6日午前中は講堂で、テキサスA&M大学のウディン教授、スブラスマレット大学のハディウィヨノ教授、本学の村岡教授が基調講演を行いました。6日午後と7日午前には4会場にわかれ、招待発表、発表が行われました。対面56名、オンライン66名という大変多くの参加があり、それぞれの発表後には熱心に質問する参加者の姿も見られました。3日目の8日には、高山市を訪れ、岐阜大学環境社会共生体研究センター高山試験地と観測タワーを見学しました。

06-07-08





UGSAS-GU Poster Presentation on Agricultural Sciences

2024



07

優秀賞受賞者

Abdi

植物生産管理学 D2

Nahar
Ashrafun

植物生産管理学 D1

Niken
Nabilaputri
Pranaasri

生物環境管理学 D3

Seichi Suzuki
生物資源利用学 D2

7日（木）午後、「UGSAS-GU Poster Presentation on Agricultural Science 2024」を開催しました。

参加学生28名が熱のこもった説明や質疑応答を行いました。最後に投票により4名の優秀賞受賞者が選ばれました。



リール大学



ヴィータウタス・マグヌス大学



シェンバングラ農科大学

2024年の国際交流について

2024年は本学でICCCを開催するほか、講義や意見交換、協定の締結など、今後の農学系分野を中心とした学生・研究交流の促進に向けて前進する一年となりました。

● リール大学（フランス）（4/2-4/3, 9/5）

連農の訪問団（安藤弘宗教授（iGCORE, 連農）矢部富雄教授、中野浩平教授、平松研究科長（連農））が共同指導学位プログラム（コチュテル）についての合意形成と視察のため、フランスのリール大学を訪問しました。

今後に向けて、Regis Bordet学長、Didier Gosset副学長と協議しました。9月5日には吉田学長及び平松研究科長がリール大学を再訪、協定書に署名を行いました。

● ヴィータウタス・マグヌス大学（リトアニア）（9/8）

吉田学長、平松研究科長が農業アカデミーのAstrida Miceikiene学長を訪問し、共同指導学位プログラム（コチュテル）についての協定書に署名を行いました。また、学内の研究施設において、野生動物の標本などを見学しました。

● バングラデシュ・タイ

12月1日から5日にかけて、中野浩平教授がシェンバングラ農科大学、バングラデシュ農業大学、バンガバンド・シェイク・ムジブール・ラーマン農業大学を訪問、各校の副学長・大学執行部と面談し、協定締結や、共同指導学位プログラム（コチュテル）に向けた議論、調整を行いました。6日には、タイのバンコクにて、キングモンクット工科大学ラカバン校のチャイラット准教授と面談、共同研究について打ち合わせをしました。

農学特別講義Ⅲ

8月22日（木）に、バンドン工科大学のDr. Ardhiani Kurnia Hidyanti、9月18日にバンドン工科大学のDr. Yoyo SuhayaとDr. Eka Mulya Alamsyah、12月2日（月）にアルバータ大学のDr. Allen. G. Good、及び12月4日（水）にインド工科大学グワハティ校のDr. Vimal Katiyarに講義を行っていただきました。

留学生の募集について

本研究科の「南部アジア地域における農学系博士教育連携コンソーシアムを基盤とする食料・環境科学に関するリーダー育成プログラム」が国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムに採択されています。2026年度入学まで修士・博士課程の留学生募集を行います。博士号取得を目指す優秀な学生がおられましたら、是非ご推薦ください。



連合農学研究科 入学式

4月7日、10月11日に
入学式を挙行了しました。

2024年度入学者数:

4月 23名 (うち留学生7名)

10月 11名 (うち留学生10名)

連合農学研究科 学位記授与式

3月25日に長良川国際会議場において、9月
13日に岐阜大学講堂において学位記授与式を
挙行了しました。

2024年3月～12月の学位記授与者数:

3月 17名 (うち留学生8名)

6月 1名 (うち留学生1名)

9月 7名 (うち留学生5名)



受賞一覧 2024

● **Egra S.**, Kuspradini, H., Sari NH., Yamauchi K. (2024).

An investigation of the antimicrobial potential of seven species of Pteridophyta. International Conference on Climate Change, Agriculture, Biodiversity, and Environment Study (CABE 2024). Best Paper.

● **Yuta Ohata**, Takafumi N Sugimoto, Yohsuke Tagami (2024). Toward elucidation of the mechanism of *Wolbachia*-induced parthenogenesis. XXVII International Congress of Entomology (ICE2024 Kyoto). Presentation Award for Young Scientists.

● **Seita Tomida**, Rebeca Kawahara, Yasuhiko Kizuka (2024).

Significance and function of Secretion of Fucosyltransferase FUT8. 2024 Society for Glycobiology (SFG) Annual Meeting. Poster Award.

● **Sarah Amira**, Kenji Kobayashi, Keita Ogawa (2024). Combined load carrying capacity of CLT perpendicular joints using self-tapping screws. The 74th Annual Meeting of Japan Wood Research Society in Kyoto. Excellence Poster Presentation Award.

● **渡辺旭裕**, 土田浩治, 岡本朋子 (2024). ナミアゲハ *Papilio xuthu* の訪花行動における色および性別に依存した局所的強調. 第71回日本生態学会大会ポスター賞, 優秀賞.

● **多賀勇亮**, 山内恒生, 光永 徹 (2024). *Peltogyne mexicana* の心材色素形成に関与する化合物の構造解明. 2024年度日本木材学会中部支部大会, 優秀発表賞.